# 不合理な地球人

| | | | |
|---|---|---|---|
| 著者名 | ハワード・S・ダンフォード | 発行年 | 2010年 |
| 出版社名 | 朝日新聞出版 | ページ数 | 311ページ |
| 値段 | 1,600円 | ISBN | 978-4023308763 |
| コメント | 行動経済学の「コ」の字も知らない超初心者さん向け楽しいガイドブック。<br>アンカリングもプロスペクト理論もフレーミング効果も、あ、そんなカンタンなことなんだ、と宇宙人さんと一緒に大納得。ナッジもヒューリスティクスもサンクコストも、お、これで呑み会のネタが増えたぜとらくらくマスター。<br>ベイズの定理になると、ちょっときびしいかな。<br>そんな感じです。たくさん揃えた行動経済学系の本の入り口としてどうぞ。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| なっちゃん<br>☆☆☆☆ | 行動経済学に関するものは初めてでしたが誰にでも分かりやすく書かれた本で隙間時間に読むものとしては良かった | | | |
| | 1ー311 | 311P (200分) | | 2012/02/14 23:37:38 |
| Albert<br>☆☆☆☆ | 直感と合理的とは違うんだな、と。<br>占い師は当たらない人を選ぶのが合理的です | | | |
| | 1-311 | 311P (80分) | | 2012/01/24 12:25:10 |
| R2D2<br>☆☆☆ | ややこしい（であろう）理論も本書の具体例を見れば概要を理解できるのでありがたい。紹介されているクイズを日常で使うと面白いとも思う。<br>また、無意識に非合理的な選択をしてしまうこの人間の性質が、マーケティングで活用されているに違いないことを思うと、経済学の威力は怖い。 | | | |
| | 1-311ページ | 311P (180分) | | 2011/12/30 16:32:20 |
| こるく<br>☆☆☆☆ | 経済学に心理学の要素が混じったような行動経済学。この本を通じて初めて知り、その魅力にはまりそうになった。<br>読者参加型の問題が文章中に散りばめられており、専門用語が出てきても退屈させない。地球人がいかに日常で不合理な行動をとっているかがよく分かり、問題を実際やってみて自分も典型的な地球人だと実感した。特に損失を回避したがる傾向についてはなるほどと思った。<br>ちなみに、立ち読みポイントを入力しなかったのは全ての内容が興味深くて、絞るのが難しかったからです。 | | | |
| | 1-311ページ | 311P (200分) | | 2011/10/13 00:13:36 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆☆ | 「人間は限定的に合理的だ」と思わず実感してしまう。全部で63題からなる問題を自分なりに合理的に回答するのだが、全く違う場合もあれば、合っているのだがなぜそう回答したのかがわからないということが多い。理由を説明されると「なるほど！」と納得してしまう。行動経済学がわかってきたような気がする。 | | | |
| | 1-311 | 311P (170分) | 17-25 | 2011/10/11 09:57:06 |

TOPへ

# ヤバい経済学/超ヤバい経済学

| | | | |
|---|---|---|---|
| 著者名 | スティーヴン・レヴィット&スティーヴン・J・ダブナー | 発行年 | 2007年 |
| 出版社名 | 東洋経済新報社 | ページ数 | 379ページ |
| 値段 | 2,000円 | ISBN | 978-4492313787 |
| コメント | 行動経済学系の本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。<br>ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。<br>リリースされたばかりの、超ヤバい続編もどうぞ。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| なっちゃん<br>☆☆☆ | 書名の通り結構奇抜でした<br>もう少し話を掘り下げたほうが自分としては良かった | | | |
| | 1ー121 | 121P (50分) | | 2012/02/14 23:42:57 |
| てぃ<br>☆☆☆ | 事象が特殊で興味を持って読めた。<br><br>ただ、それが経済学的にどうつながっているのかがわかりづらかった。 | | | |
| | 超 23-168 | 146P (90分) | | 2012/02/12 10:02:55 |
| あああああ<br>☆☆☆☆ | 朝の情報番組（スッキリ？）で取り上げられていて<br>読んでみました。<br><br>あまり経済学が好きではないのですが<br>経済っぽくない題材を取り扱っていて<br>すらすら読めました。 | | | |
| | 1-121 | 121P (100分) | | 2012/01/24 02:08:08 |
| | 経済学の本で、しかも厚めのハードカバー。<br><br>難しそうだなぁ、、と思って読んでみると、すらすらと読める！面白い！<br><br>でも、経済学について僕はあまり知りませんが、これが経済学なの？ って感じがしました。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Nob<br>☆☆☆☆ | いくつかの話題を取り上げているので、つまみ食いにどうぞ！ 笑 | | | |
| | 超ヤバイ経済学 序章、第1章、第3章、第4章、終章、その他 | 189P (210分) | | 2012/01/09 11:45:35 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 坂本さん<br>☆☆☆☆☆ | 売春やテロなどの事柄について、経済学の考え方を使って独自の見解を示している。通説とは違う、かなりひねくれた考え方をしていて面白い。個人的には地球温暖化対策として、二酸化炭素の排出を抑えるのではなく物理的に地球を冷やすアイデアを出している団体を紹介している章が印象的だった。確かにそっちの方がコストもかからず手っ取り早いな。<br>世の通説や常識が性に合わない人におすすめ。 | | | |
| | 超ヤバイ 1-273 | 273P (180分) | | 2011/12/12 19:23:50 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆ | さまざまな統計データから面白い仮説を立て、それを掘り下げていく。テーマは本当に色々で、気になったものだけを読んでみるのもいいと思う。時間があれば続きを読んでみたいと思っています。 | | | |
| | 1-122 | 122P (90分) | | 2011/11/22 00:21:28 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| タワー<br>☆☆☆☆ | ひとはインセンティブによって動くというテーマをもとに進められていく。具体例がどれも今まで聞いたことのない内容だったのでよんでいて飽きないです。とくに一章はなかなかディープです。 | | | |
| | 1-121 | 121P (50分) | 23-70 | 2011/11/15 12:48:47 |

TOPへ

# 大相撲の経済学

| | | | |
|---|---|---|---|
| 著者名 | 中島隆信 | 発行年 | 2008年 |
| 出版社名 | ちくま文庫 | ページ数 | 237ページ |
| 値段 | 680円 | ISBN | 978-4480424280 |
| コメント | 相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。<br>実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆☆ | 相撲は関心あるから面白かった。<br>でも全然読んでないから、もう少し読んでみようかしら | | | |
| | 1-60 | 60P (30分) | | 2012/02/13 14:31:57 |
| こはる<br>☆☆☆ | 相撲界ってこんなに面白いことになってたのか、という感じ。でも立ち読みだけなので今度ちゃんと読みたい。 | | | |
| | 1-45 | 45P (30分) | | 2012/02/13 09:07:38 |
| しゅまり<br>☆☆☆ | 経済学ってとっつきにくい…と思って敬遠していたので、大相撲は大好きだから何かとっかかりになるかも…と期待して読んでみたが<br>経済の本というよりは相撲界の雑学本みたいな印象を受けた。<br>それはそれで面白いんだけど、相撲に興味がない人にとっては微妙かも？ | | | |
| | all | 253P (120分) | | 2012/01/17 21:01:19 |
| あき<br>☆☆☆ | 相撲界が一般の企業ではなく、公益性の高い業界であることを考えれば、100%スポーツ性を楽しむものとできないのも納得。伝統を守ることを考えているのなら、国民的「スポーツ」といえども、実際の運営の仕方などは歌舞伎などに近いのではないかと思った。文化的なものを守るためにはお金がかかるので、外から見て無駄と感じられても必要なものもあるだろう。ただ、既得権益を守ろうとすることで一部の人にお金がいき、不公平で不適切なお金の使い方をしているのなら、そこは正さないといけないと思う。<br><br>相撲が伝統よりもスポーツ性を重視することになったらどうなるのかと考えてみたら、柔道みたいな扱いになるのかな、と思った。が、そんなことをしたら、やっぱりもともとのファンも含め、多くの日本人には違和感のあるSUMOができてしまいそうである。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | この本を読んで両国国技館がどんな雰囲気の場所なのか興味がわいたので、今度行ってみたいと思った。<br>歌舞伎もきちんと見てみたい。歌舞伎座の新しいのができたらどんな雰囲気になるのか不安＋楽しみ。 | | | |
| | 1-37,95-109,167-237 | 121P (100分) | | 2011/12/11 00:24:10 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| こるく<br>☆☆☆☆ | 経済学の観点から相撲制度の在り方を分析している本である。<br>力士の一日の暮らしなどは、今まで想像したことがなかったので興味深かった。また、八百長をしたくなるきっかけが経済学的に分析すると存在するという考察が印象的だった。この本が刊行されたのは八百長問題が明るみになる前だったのだが、伝統かスポーツか、はっきりと分類するのが難しいという相撲界では、八百長はやむを得ないことだったのかとも思ってしまう。<br>個人的には、相撲は伝統的かつ「クリーンなスポーツ」であり続けてほしいのだが。 | | | |
| | 1-237ページ | 237P (140分) | 75-94ページ | 2011/12/06 19:28:42 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 片道1.5時間<br>☆☆☆ | パッと見だと因習に囚われているだけとしか思えない相撲界のさまざまな制度が、実は「伝統を守る」という観点から見ると合理的にできている、という本。確かに、相撲は長く生き残っているうえに他の伝統芸能とは別格の人気を保っている。その組織が『非合理的』なわけがない。<br>相撲以外でも非合理的に見えるのに長く生き残っている組織は色々ある。そういう組織にはなんとなく反感を抱くだけで終わりがちだが、この本と同じように分析してみると面白そうだ。<br>【欠点】理屈の部分は面白いが、（当然ながら）内容は相撲相撲相撲相撲なので相撲に全く興味がない人には通読はキツイと思う。 | | | |
| | 全部 | 237P (120分) | 第1章 | 2011/12/02 21:50:15 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Albert<br>☆☆☆☆ | 相撲界のシステムについてまとめられた本です。<br>日本の国技にもかかわらず、外国人力士が台頭することを危惧していましたが、この本を読んで考え方が変わりました。「外国人にとって今の相撲システムは給料がほかと比べて安い上に引退後の生活も保証されないため、リスクが高く、今以上に外国人力士が魅力を感じない。」という意見に共感したからです。 | | | |
| | 1-270 | 253P (105分) | 147-162 | 2011/11/23 06:54:12 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 坂本さん<br>☆☆☆☆ | よく「閉鎖的」と言われる角界について経済学の視点から分析した本。相撲界についての報道を聞きながら、「なんで相撲界はこんな変なシステムなんだろう？」とよく思っていたので興味深く読めた。<br>なるほど合理的だと思える所もあれば、う～んやっぱり閉鎖的だなと感じるところもあった。「伝統」と上手く付き合うのはそれなりに大変なのだろう。 | | | |
| | 1-237 | 237P (240分) | | 2011/11/19 22:33:41 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| てでぃ<br>☆☆☆☆ | 相撲…<br>相撲取り。日本の国技。八百長問題。理事会？枡席。る<br>日本に昔からあるものなのに、連想してもそのくらいしか出てこない。<br>そんな相撲に対する基本的な知識が身につきます！<br>ところどころが経済学に絡んでいて理解しやすいです。 | | | |
| | 1-237 | 237P (160分) | | 2011/11/11 09:50:14 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| タワー<br>☆☆☆☆ | 知ってるようでしらない相撲の世界<br>現役力士の生活や引退後の生活などから八百長についてまで詳しく書いてあります<br>特に最近話題になっていた八百長の部分は読む価値あります！ | | | |
| | 75-95, 111-131 | 40P (20分) | 126-128 | 2011/10/24 23:05:45 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 経済学は市場経済一般以外にも活用の場があるということを教えてくれる一冊。筆者はよほど相撲 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | が好きなんだろうな、と思って読んでいると、やはり学生時代は月刊誌『大相撲』を読んで相撲取りのデータ丸暗記してたらしい。<br>「相撲業界はひとつの会社のようなもの」「相撲はスポーツではなくて文化として守ってゆかなければならない」という、逆説的な結論を、経済学の立場から示している。意外だが合点がいった。 | | | |
| | 1-237ページ | 237P (220分) | 111-129,231-232ページ | 2011/10/12 22:27:03 |

TOPへ

# 科学的とはどういう意味か

| 著者名 | 森 博嗣 | 発行年 | 2011年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 幻冬舎新書 | ページ数 | 197ページ |
| 値段 | 798円 | ISBN | 978-4344982208 |
| コメント | 自称理系な人ほど読んで考えて欲しい。理系って何さ。<br>理系作家、森博嗣の描く好奇心満載の教訓集。「考える」ことを放棄している社会に対して警告を促し、科学的という形容詞の持つ本質的な、でも忘れられがちな内容を丁寧に紹介していく。<br>これを読めば、理系男子がそっけないのがわかるかも？ | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| カンコーヒ<br>☆☆☆ | なにやら微妙な本。<br>みんなの評価もそんなに高くなさそうだけど、著者の先入観、自分は正しいという思い込みが前面に出てる。<br>なんか２、３年前の自分を見てるようだった。恥ずかしい。笑 | | | |
| | 1-197 | 197P (200分) | | 2012/02/09 14:56:41 |
| アニマル<br>☆☆ | 理系だ文系だのしつこい人ですね。理系とか文系とかそういう見方をしてあれこれ言ってもあまり意味がないと思った。 | | | |
| | all | 197P (100分) | | 2012/02/01 22:30:31 |
| 柊<br>☆☆☆ | 読みやすい本だった。<br>しかし主観論の範囲を超えておらず、共感は得られるかもしれないけど、納得は難しいと思った。 | | | |
| | 全部 | 186P (150分) | | 2012/01/17 11:10:33 |
| ぶち<br>☆☆☆ | 「科学とは、誰にでも再現できるもの」 ここが私の読んだ箇所ではポイントでした。科学に対する捉え方として、参考になったと思います。しかし、言っていることがしばしば極端なきらいもあり、大衆向きの本とはお世辞にも言えませんでした。 | | | |
| | 67-107 | 41P (30分) | 75-76 | 2011/12/27 11:40:25 |
| あおい | 理系と文系という物差しで人々を一概に分けて、自己的主観で述べているようにしか感じなかった。科学的じゃなくねｗｗｗ | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ☆ | 1-197 | 197P (70分) | | 2011/12/20 23:56:34 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| nodo<br>☆☆☆☆ | 理系とか文系とか、、、作者の気持ちはとてもよくわかる。でもまぁおおっぴらに言うことでもないかな。たぶん彼は根がやさしいから、こんなきついことをついつい言いたくなってしまうのだろう。 | | | |
| | 1-100 | 100P (60分) | | 2011/12/06 20:33:45 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| わぐなりあ<br>☆☆☆☆ | ただ単に数学と物理の成績が国語などよりも良かったために理系の大学に入った自分としては、著者の考えとマッチする部分が多くサクサク読み進められた。著者が言うように文系の人の中には数字を極端に嫌う人がいるように感じる。<br>こうしてWeb上にコメントを載せていることだけから考えても私たちは科学に依拠している。「科学的であるとは何か」もう一度ふりかえるためにこの本は良い本だと思う。 | | | |
| | 1-197 | 197P (90分) | | 2011/12/05 14:37:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| bakeneko<br>☆☆☆☆ | 理系文系論よりも、専門家や理系的知識をどのように社会は活用すべきかという議論が、非常に興味深かった。立ち読みポイントで挙げたような見解が世間では認知されていないために、無用の擦れ違いが起きているケースは確かに多いだろうと思う。 | | | |
| | 1-197 | 197P (40分) | 56-60 | 2011/12/01 11:41:43 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 嫌好法師<br>☆☆ | 「科学離れ」を危惧する筆者の主旨はよくわかる。よくわかるからこそ、惜しい。というのも、この本が科学離れしている当人にとってなかなか読みづらいように感じられたからだ。これでは「これだから理系は・・・」と結局退けられかねない。「結局おだてているだけじゃん」「誰も説教なんて進んで聞きたくもないし」というのが世間の本音ではなかろうか。知らぬが仏と高らかに笑う文系人をいかに筆者が説得しうるのか、是非とも見てみたいものである。<br><br>とはいえ、筆者が強く疑問を抱いている教育のあり方については共鳴できる部分も多いので、他の作品も読んでみたいと思った。 | | | |
| | 1-197 | 197P (100分) | 180-183 | 2011/11/26 23:06:25 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| サーフ<br>☆☆ | うーん…<br>文系理系を完全に分けてモノを見るのってナンセンスじゃない？ | | | |
| | 1-197 | 197P (90分) | | 2011/11/21 20:33:13 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆ | 世間で科学が敬遠されていることを何度も批判している。多くの人が科学を遠ざければ、民主主義の世の中、損をしたり、被害をこうむるのは自分たち自身である、ということはよくわかった。<br>ただ、「理系の人は、文系の科目が嫌いなわけじゃないから、文系の科目もある程度理解している。でも文系の人は理系の科目が嫌いだから文系を選んでいて、理系の科目への理解がほとんどない」といったような論が時折出てくるが、筆者の経験から得た感覚の域を脱しておらず、全く「科学的」でない。読んでいて理系の自分でも不快なので、文系の人が読んだらもっと不快に感じるのではないか。 | | | |
| | 1-197 | 197P (100分) | | 2011/11/19 13:56:39 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| aya<br>☆☆☆ | 携帯とかPCとか原発とか、一般の人には難しい科学（技術）であふれている現代。その中で生きてるんだから、もっと科学を知って、仕組みとか安全性とか、主体的に考えましょう。信じきっていると危ないですよっていう本。<br><br>文系理系のくだりで、かなり偏った意見を書いてるけど、<br>それ以外はためになる本だと思う。<br><br>たぶんわざと曖昧に使ってる言葉（科学・算数・理系など）に惑わされず、ざっと読むのがおすす | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | め。 | | | |
| | 1-197 | 197P (120分) | | 2011/11/09 16:31:57 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 坂本さん<br>☆ | 私の考える科学と著者の科学ではかなり違っている。著者の科学はより狭義のものになっているし、技術も科学に含めてしまってるような感じさえする。その点で著者は科学に対して大きな誤解をしているし、読者に対して誤解を促すかのような書き方で話を進めている。本の１章では数学嫌いの話と理系・文系の話になっているが、この部分は必要なのだろうか。この著者の書き方だと読者が理系＝科学だと勘違いしかねない。また、技術＝科学とも取れる記述もあり、これも非常に危険だ。この本は科学教育の教材として使うにはあまりおすすめできない。少なくとも私はこの本を読んで得たものはあまりない。唯一評価できるのは「科学の本質は再現可能性にある」と書いてある部分だろう。私としてはこの部分にもっとページを割いて欲しかった。科学的とはどういう意味か知りたかったら、もっとしっかりした科学哲学の本を買ったほうが良いと思う。この本を読んで科学が分かったと思った人は冷静になって考えなおしたほうが良いかもしれない。 | | | |
| | 1-197 | 197P (60分) | | 2011/11/03 12:53:04 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆ | なかなか好き嫌いが大きく分かれそうな本であった。理系の人間は共感できるところが多くありそうだ。文系の人はただ不快感を覚えるだけかもしれない。（筆者いわく「理系」と「文系」の分け方自体が非科学的なのだが…）科学的思考法がわかりやすく書かれていて、けっこうすらすらと読めるので流し読みでも十分だと思います。 | | | |
| | 1-197 | 197P (90分) | 54-65 | 2011/11/01 10:00:46 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 片道1.5時間<br>☆☆☆ | 「科学的とはどういう意味か」、タイトルにもなっているこの問いに自信を持って即答できない人は絶対に読むべき。<br>自分は即答できる！って人も、もしかしたらその自己評価は間違ってるかもしれない（例えば、科学的＝実験主義と思ってる人は意外と多いのでは？）。<br><br>とにかく、理系である以上、一度くらいはこういう本を読んで科学とは何かじっくり考えてもいいんじゃないだろうか。<br><br>ところでこの本、表現とか説明とかが全く「文系」向けに書かれていない。文系の人に薦めたら、挑発してるかバカにしてると思われそうだ。<br>「この本じゃないと載ってない」という内容は特に無いので評価は3。似たような本を読んだことがある人は別に読む必要なさそうである。 | | | |
| | 全部 | 197P (60分) | | 2011/10/31 16:36:06 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しゅまり<br>☆☆☆ | 最近、いわゆる科学的な思考法に関する本って多い気がする。そのせいか、本書の内容はかなり既視感が…。<br>体系的に書かれているわけでもなく、世に出ている科学的な思考法本の中で特に優れているとも感じなかった。<br>とはいえ文章は平易だし例なども多く新書ということもあり、とっつきやすくはあるかもしれない。 | | | |
| | all | 197P (60分) | | 2011/10/26 01:11:19 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ほまひ<br>☆☆☆☆ | 昔この人のブログを毎日読んでいたことがあるのですが、今回の作品はそこで語られていたことの一部でした。<br>こういう理系大学にいると、文系と理系という差異を考えることは意外とあります。結構文系というのを数学が苦手な集団という若干見下した印象を持つ人って多いのかなーと思います。 | | | |
| | all | 197P (60分) | | 2011/10/19 21:24:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2 | 言葉づかいに独特なところがあって本書の筆者が書いている小説は敬遠していたけど、この新書で使われる言葉は理路整然としていていかにも文才にも恵まれている、と感じた。<br>科学に不信感を持つ人、信用しきっている人は表裏一体で、科学とはどういうものかを知らない人 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ☆☆☆☆ | という意味で共通なのだろうか？<br>「理系の大学に入ったけど、自分はもしかしたら文系かもしれない」と思っちゃう人、僕です。 | | | |
| | 1-197ページ | 197P (130分) | | 2011/10/11 23:28:29 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 妄想族<br>☆☆☆☆☆ | 理系・文系関係なくすべての人達読んで欲しい。この本を読んで今までの自分を考え直す人が多いのではなかろうか、人生損をしている人が多いのではないか。今もう一度自分というものを見直してみる機会を与えてくれる本である。 | | | |
| | 1ー197 | 197P (180分) | 章のまとめページ | 2011/10/11 08:11:14 |

ＴＯＰへ

# 動的平衡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 著者名 | 福岡伸一 | 発行年 | 2009年 |
| 出版社名 | 木楽舎 | ページ数 | 240ページ |
| 値段 | 1,524円 | ISBN | 978-4863240124 |
| コメント | 『生物と無生物の間』が新事実満載の気合いの入ったパワフル講義とするならば、こちらは同じ事実を踏まえつつも、ぐっと気さくな炉端トーク。だから、『生物と無生物の間』のイントロダクションとしても、逆に余韻を楽しむかたちでも行けます。<br>生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| ＊＾－＾）<br>☆☆☆☆☆ | 一気に食いだめするのとちびちび食べるのと、どっちがダイエット効果があるか？とか、コラーゲンを食べると本当に肌が綺麗になるのか？とか、身近なところから「生命」を徹底的にカガクしていくこの本、すごくおすすめ。<br>生物は自分に関係ないっていう東工大生にこそ読んでほしいなーって思いました。 | | | |
| | 1-254 | 254P (180分) | | 2012/02/14 08:45:33 |
| サーフ<br>☆☆☆ | 目次が面白そうでした、けど、読んでみたら難しかった〜… | | | |
| | 1- | 2P (3分) | | 2012/02/05 01:18:10 |
| 嫌好法師<br>☆☆☆☆ | 動的平衡という言葉を福岡さんの別の本で読んでいたので、その書籍の理解を助けるという意味でもとても明快で読みやすい本でした。<br><br>この動的平衡という考え方は、ある意味すごく日本的というか仏教的だと思うのですが、彼の著書を読めばその本質が素直に受け入れられるような気がします。おすすめ。 | | | |
| | 1-240 | 240P (150分) | | 2012/01/20 21:49:23 |
| しゅまり<br>☆☆☆☆ | 福岡伸一さんの本はどれも面白い。<br>この本はけっこういろんなことについて述べているので、内容的にもとっつきやすいと思う。<br>個人的には福岡さんの「世界は分けてもわからない」が科学的思考の本では1番のおススメなので来期のヒストリアンズに入れてほしいですね。 | | | |
| | all | 254P (150分) | | 2012/01/17 21:07:32 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 連載記事がもとになっているだけあって、生物学史から狂牛病問題・美容健康食品に関することまで、『生物と無生物のあいだ』に比べて話題の振りが唐突で（各章の冒頭ごとに導入が入る感じ？）、気楽に興味深く読める印象があった。最新の研究成果にも触れながら、機械論的な生命観の行き詰まりを示し、いま私たちが生命観をどうとらえ直すかが主題になっている。（すなわち、生命は代謝のシステムで常に変化し続けている存在である！）<br>読みやすい言葉づかいにもかかわらず生物学に対する造詣の深さを強く感じる文章で、個人的に筆者の生命観を支持できるということを抜きにしても、多くの人に読まれる本であることに納得がいった。『動的平衡2』が出ているので、そちらもじきに読みたい。<br><br>……と思っていたら瞬く間に『動的平衡2 生命は自由になれるのか』を入れていただきました、ありがとうございます！<br>相変わらず福岡伸一さんの博学さには驚かされ続けます。次々に繰り出される芸術や科学の生きた教養が、高い水準で保たれる筆者の知性を形作っている、と言えば言い過ぎでしょうか、そのように感じます。<br>副題は、遺伝子のプログラムが種の保存のためでなく「生命は、（淘汰の法則に縛られず）自由であれ」というエピジェネティックスというもう一つの生命の捉え方を踏まえたものです。<br>生命の不可思議な振る舞いを再発見できます。 | | | |
| | 1巻1-254ページ、2巻1-254ページ | 508P (220分) | | 2011/12/21 23:25:10 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆ | 生物学に関する本というよりも、生命観に関するホンといった印象。<br>読んだ後に、時間の流れに任せて静かに年を取り、時期が来たら死を静かに受け入れよう、という優しい気持ちになりました。 | | | |
| | 1-254 | 254P (120分) | | 2011/10/19 22:15:07 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| bakeneko<br>☆☆☆ | 『生物と無生物の間』は以前読んだことがあるのですが、本文で直接暴露されるまで気づきませんでした。どうりでスムーズに読めるわけだと納得でした。<br>『機械的な生命観は既に機能していない』という明確な主張を、けれど最初から前面に押し出さずに、歴史的背景や身近な事例から徐々に帰納していくという構成に、まず大変感心しました（ただし、そのような摩擦を極力抑え構成の妙が、格式ばった題名のせいで著しく損なわれてしまっている点は、非常に気になりました）。<br>また、遺伝子組み換え作物や、クローン技術など、生理的嫌悪感が理性に優先してしまうような議論を主軸に起きつつも、しかしそのような感情論に逃げてしまわず、あくまで科学的な非合理性からそれらに疑問を投げかけていく論の運びも見事でした。さりげなくこれらと似た構造でもって食人の危険性を語っている点からも、作者が意図的にこうした構成を用いているのは明らかで、唸らせられました。<br>しかし、いわゆる『自然』な生命の在り方を、素朴に正とするような着地の仕方には、その説得力に満足感を覚える一方で、少なからず物足りなさを感じました。『現行科学によって機械的に分解されることのない神秘的な生物であるところの自分』というある種のナルシシズムを享受するに留まって、本当に現在生物学が直面している問題と向き合わずに満足してしまう読者を量産してしまうような締めくくりではないかと、自分には思われたということです。<br>たとえば先述した、食人と遺伝子組み換え技術をさりげなく構造上同等に扱い、遺伝子組み換え作物へのマイナス感情をサブリミナルに煽る構成も、その作為的に読者の認識を誘導するような構成に、感心すると同時に強い反発を覚えました。<br>一見太刀打ちしがたいこの謎めいた動的平衡に、恣意をもって干渉するためにはどのような戦略を用いればいいのか。現役の研究者である著者がそうした命題に対して回答しうるなんらかのアイデアを持っていなはずはなく、それらについてもっと論を展開してくれればよかったのにと、極めて残念でした。 | | | |
| | 1-254 | 254P (90分) | 62-66 | 2011/10/06 02:45:23 |

TOPへ

# 宇宙は何でできているのか

| 著者名 | 村山 斉 | 発行年 | 2010年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 幻冬舎新書 | ページ数 | 226ページ |
| 値段 | 800円 | ISBN | 978-4344981881 |
| コメント | 宇宙のほとんどはからっぽ？ トンデモナイ！<br>ダークマターが23%<br>ダークエネルギーが73%<br>なんですね、ホントの話。<br>超ムズカシイ。でも、最先端をみんなと共有したい、という著者の志が熱い一冊です。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆☆ | イントロダクションだけ読んでもぞくぞくします！<br>男子は宇宙好きでしょ？面白いです！ | | | |
| | 1-50 | 50P (30分) | | 2012/02/13 14:35:59 |
| アニマル<br>☆☆☆ | 宇宙は謎に包まれている。読んでいてワクワクしてきたが、わからないまま終わるのはスッキリしないから星３つで | | | |
| | 1-226 | 226P (200分) | | 2012/01/13 18:07:07 |
| サーフ<br>☆☆☆ | うーんむずかしいいいいいい、、、 | | | |
| | 1-226 | 226P (90分) | | 2011/12/21 21:32:36 |
| あき<br>☆☆ | 初めて聞く言葉だらけで理解することはできなかった。<br>宇宙が余計遠くなった感じ。<br><br>ただ、大型加速器による実験の誤差を月やTGVに見つけた話は、実験の面白さが伝わってくる話だった。 | | | |
| | 1-58,146-192 | 105P (80分) | 171-173 | 2011/12/20 22:27:19 |
| | すごっく難しい物理学が易しく書かれています。<br>アインシュタインとかニュートンとかが頑張ってくれたけど、<br>実は宇宙のことって全然わかってないみたいです。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ｐｉｇ(・∞・)<br>☆☆☆☆ | 地球があって私たちが生きてるのって超奇跡なんですね！ | | | |
| | 1-226 | 226P (250分) | | 2011/11/19 01:37:09 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しゅまり<br>☆☆☆ | 宇宙とか、素粒子とかにちょっとでも興味があれば面白いと思う。<br>まぁブルーバックス見たいな感じ。<br>ふと思ったけど、こういう理系の話題の新書ってどういう層の人が買うんだろう。文系の人が読んでも楽しめるのだろうか。<br>なんてことが気になった。 | | | |
| | all | 226P (100分) | | 2011/11/15 17:46:33 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆ | 宇宙の全体像が分かりやすく書かれていてなかなか面白く読めました。特に宇宙の96%を占めるという暗黒エネルギーや暗黒物質の話は興味深いものでした。本の中盤からミクロな粒子の説明になると話が複雑で難しくなるので本の評価は☆3つにしました。<br>宇宙に興味がある人にはお勧めします。<br>興味がない人も前半のみでも読んでみてはいかがですか。 | | | |
| | 1-226 | 226P (120分) | 35-58 | 2011/11/01 09:29:28 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 序盤は「素粒子物理学をつくった人びと〈上〉」や、物理教科書の冒頭で少し読んだことがある内容でした。でも、ページを読み進めるに連れて、最新の研究成果についても触れるようになって、研究者本人が身近に触れているものとしての宇宙論の姿がイメージされるようになってきました。<br><br>「ウロボロスの蛇」と表現される宇宙と素粒子の関係についての研究が日本でも進んでいること、「なぜその研究が必要なのか」という質問に筆者は「日本を豊かにするためです」（経済的意味だけでなく、心、精神、文化の豊かさも意味する）と答えることに安心しました。 | | | |
| | 1-226ページ | 226P (120分) | 第2章 | 2011/10/28 21:08:49 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おわこん<br>☆☆☆☆ | 宇宙に少しでも興味があれば、面白い内容の本でる。<br>筆者の説明がとてもわかり易く、サクサクよめるのでおすすめ。<br><br>物理の話も簡単に説明されているので、大学受験以来物理を勉強していない人には「へぇ」と思える部分が多くあるのではないか。 | | | |
| | 1-33,42-58,105-122,193-226 | 102P (70分) | 20-21 | 2011/10/24 17:38:19 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おにぎりんぬ<br>☆☆☆☆ | タイトルに惹かれてこの本を読んでみようと思いました。<br><br>多くの人が一度は「宇宙は何で出来ているんだろう?」とか「宇宙の大きさってどのくらいなんだろう?」とか「宇宙が誕生した瞬間ってどんな感じだったんだろう?」という疑問を持ったことがあると思います。この本はそれらの疑問に対する答えを非常に丁寧に説明してくれます。<br><br>ただ、前半は宇宙についての話題がほとんどで分かりやすく、とても面白かったのですが、後半あたりでは素粒子やクォークやヒグス粒子などといった専門的な話でかなり理解しづらかったので読んでいて苦痛でした(笑)<br><br>宇宙に興味がある人や、タイトルの疑問の答えが知りたい人、量子力学が好きな人にはぜひお勧めしたい一冊です。 | | | |
| | 1-226ページ | 222P (180分) | 25-56ページ | 2011/10/08 13:42:29 |

ＴＯＰへ

# はやぶさの大冒険

| 著者名 | 山根一眞 | 発行年 | 2010年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | マガジンハウス | ページ数 | 288ページ |
| 値段 | 1,365円 | ISBN | 978-4838721030 |
| コメント | 各ページの右端にご注目。パラパラパラ……。<br>こんな小さな仕掛けからも、著者の山根さんが、はやぶさに寄せる思いが伝わってきます。はやぶさの誕生から帰還まで、ゆっくりゆっくり見つめてきたライターさんならではの思いの結晶。<br>――おかえりはやぶさ。君は最後の最後まで大したやつだった。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| アカシア<br>☆☆☆☆ | はやぶさはプラネタリウムでも見たことがあり、その内容についても少し知っていましたが、本だと更にその詳細が分かりやすく現代の技術には驚かされました。はやぶさが生きているような感じさえしました!! | | | |
| | 1-40 | 40P (60分) | | 2012/02/14 15:14:27 |
| こはる<br>☆☆ | ぱらぱらっと。<br>パラパラ漫画かきたい。 | | | |
| | 1-50 | 50P (40分) | | 2012/02/13 08:56:11 |
| アニマル<br>☆☆☆ | 科学にもドラマがあるんですね。テレビで見ることよりも詳しく知ることができます。技術者も苦労したんですね。映画化されたのもうなづけます。 | | | |
| | all | 288P (340分) | | 2012/02/01 23:23:18 |
| ちゃむ<br>☆☆☆☆ | 例え話がとても上手い。時速10万キロの小惑星に降りることは、東京から2万キロ離れたブラジルのサンパウロの空を飛んでいる体長5ミリの虫に、弾丸を命中させるようなもの(p.41)とか。地球上、日本での時事話も随所用いられていて、それが昔のことに感じられるぐらいはやぶさは宇宙を旅していたんだなと思うと感慨深い。<br>人間の手が届かないところをほとんど誤差なくやり遂げてしまったのは、日々の研究の賜物だが、この功績が予算削減や世論が厳しいことによるプレッシャーも関与しているとしたら、複雑な思いである。<br>本の終盤になると、いつのまにかはやぶさを擬人化していた。はやぶさが帰還して注目された頃に、「はやぶさたん」という擬人化されたキャラが生まれたのも納得。はやぶさはほんとに健気な可愛い子である。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 1-295 | 295P (155分) | カラーページ(特に後ろ10,11ページの第10章の写真) | 2012/01/17 09:28:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆ | 私は地球惑星化学科なのでとても興味深く読めて良かった。<br>人工衛星の運営の大変さが分かる一方で、「不具合多くね？？」とも思った。<br>ドラマチックな内容なので、ドキュメンタリーだけど小説を読むようだった。 | | | |
| | 8-295 | 288P (360分) | | 2011/11/28 02:10:43 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| bakeneko<br>☆☆☆☆☆ | はやぶさ！はやぶさ！、と世間で騒がれ始めてから小惑星探査機はやぶさのことを知ったので、ついにリアルタイムではお祭り騒ぎに乗れないままでした。課題図書中に本書があったのは僕にとっていい機会でした。<br>途中途中にインタビュー形式の対談が挟みこまれているのですが、ここでの山根氏（＝筆者）のインタビューが驚くほどにうまい。素人じみた質問を幾つもしているのだけれど、それは明らかに読者への説明のための質問であり、実に計画的に対談を成り立たせている。<br>またただ年月日を記すのではなくて、当時の時事ネタを細かく挟んでくるために、実に時間の経過を追体感しやすい。<br>ただ、各インタビューがどの時期に収録されたものなのか、それが明記されていなかったのが残念でした。内容的にプロジェクトの進行中にそれぞれ収録されたのだと思うのですが。<br>はやぶさ関係なしに、この本が自前で欲しくなりました。文庫に落ちる予定があるならば是非買いたいですね。 | | | |
| | 1-295 | 295P (80分) | 80-88 | 2011/11/10 15:57:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | メディアで散々取り上げられて食傷気味な話題かな、と思って読み始めたが、対話形式を挟みながら、時の流れに沿ってドキュメント形式で丁寧に「はやぶさ」をめぐる描写がされている点で、親しみやすく読みやすいです。<br>筆者は、「はやぶさ」が有名になる前から7年間にもわたって地道な取材を続け、快挙を喜ぶ情報が大手メディアやネットにあふれた後、詳しく正確な情報を知ってほしいとしてこの本を書いたと言いますから、あの小惑星探査機がどのように優れたプロジェクトであったかを知るためにも、他の人にもぜひとも本書を手に取ってほしい。 | | | |
| | 1-288ページ | 288P (160分) | 9章 | 2011/11/05 18:12:04 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| aya<br>☆☆☆ | かかわっているすべての人の技術と愛情がすごいです。 | | | |
| | 194-207,280-294 | 27P (50分) | | 2011/11/01 17:48:07 |

TOPへ

# 宇宙飛行士が撮った母なる地球

| 著者名 | 野口聡一 | 発行年 | 2010年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 中央公論新社 | ページ数 | 120ページ |
| 値段 | 1,900円 | ISBN | 978-4120041839 |
| コメント | 富士山がフジツボみたいっっ！ 誰がうまいこと言えと……<br>いやもう、ワンカットごとに、なんなんだこれは、どうしてこんな色なんだ、と驚きが尽きません。マッシュルームみたいな月や、小石みたいなエアーズロックや……。野口さんプロデュースの宇宙散歩、お楽しみください。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| なっちゃん<br>☆☆☆ | 一度でいいから宇宙に行ってみたいと思わせる一冊 | | | |
| | 1－120 | 120P (10分) | | 2012/02/15 00:51:37 |
| Elmo<br>☆☆☆ | Wow～ | | | |
| | 1 - 120 | 120P (10分) | all | 2012/02/14 13:51:11 |
| いち<br>☆☆☆☆ | いい眺めですね～ | | | |
| | ぜんぶ | 120P (15分) | | 2012/02/12 23:36:19 |
| ただ<br>☆☆☆ | 綺麗な写真がいっぱい並んでた。そんだけ | | | |
| | 1-120 | 120P (10分) | | 2012/02/04 02:56:22 |
| らびっと<br>☆☆☆☆ | 宇宙から見た地球って綺麗！！<br>ただ、夜の便の飛行機から見た景色と少し似ていたように思う。<br>個人的には、もう少し引きの画があると良かったかな。いわゆる地球って写真。 | | | |
| | 1-120 | 120P (20分) | | 2012/01/31 22:31:44 |
| ぶち<br>☆☆☆☆☆ | 宇宙から撮影した地球の美しい写真が満載です。オーロラなどの自然風景はもちろんのこと、大都市の夜景も見応えがあります。宇宙から見た都市の姿は、また別の形を見せていて面白かったです。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 1-120 | 120P (40分) | 81 | 2012/01/31 12:59:47 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ボールボーイ<br>☆☆☆ | 写真が偉大！！<br>キレイだし面白かった。 | | | |
| | 1-120 | 120P (30分) | | 2012/01/24 19:29:31 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ｐｉｇ(・∞・)<br>☆☆☆ | part3 NAME？「ここはどこ」が面白かったです。<br>ヒューストンの夜景っって本当にきれいですよね！ | | | |
| | 1-120 | 120P (40分) | | 2012/01/22 11:33:05 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ちゃむ<br>☆☆☆ | いつも私たちは北を上にして見るけど、ほんとは上も下もないんだよなと思った。<br><br>そして地上から見る景色の方が好きだなと思ったのでした。 | | | |
| | 1-119 | 119P (10分) | | 2012/01/10 13:16:32 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| てぃ<br>☆☆☆ | 読む前にイメージしていた青い地球ではないシーンがいくつもあって、新たな発見ができた！<br>夜景みたいな地球もいいね！ | | | |
| | 1-120 | 120P (20分) | | 2012/01/05 01:50:06 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あおい<br>☆☆☆☆ | 心の底から宇宙に行ってみたいと思いました。この本でも十分に感動したけど、自分の目で見ることができたら・・・<br>考えただけでヤバイです | | | |
| | 1-120 | 120P (10分) | | 2011/12/20 23:39:30 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆ | 立ち読みポイントのページの上半分が印象的。<br>どくろっぽい。ドクロの右目に黄金を見た、的な。<br><br>面白いけど、写真って文字より伝える力に欠けます。 | | | |
| | 1-119 | 119P (5分) | 69 | 2011/12/20 01:49:01 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| こるく<br>☆☆☆☆☆ | 宇宙から見た地球、自然のすごさに驚嘆の一言。<br>場所によって、宇宙から見た海の青さが微妙に違っていることや、砂漠が非常に赤く見えることなど、地上からでは決して感じられないであろう色彩が印象的だった。<br>また、都市の幾何学的な様子（特に夜に電気で浮かび上がるように見える様子）が面白かった。 | | | |
| | 1-111ページ | 111P (30分) | | 2011/12/06 21:05:41 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| じん<br>☆☆☆☆ | 航空写真よりも壮大だった！世界の有名な都市をそれぞれ写したものも、それぞれ特徴があって面白い！ | | | |
| | 1-120 | 120P (30分) | 78-79 | 2011/12/06 00:37:35 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おにぎりんぬ<br>☆☆☆☆ | 写真が全部カラーですごくきれい。<br>自分のお気に入りはバーレーンと南アフリカ海岸線!バーレーンはまるでゲームに出てきそうで面白い!南アフリカ海岸線は鮮やかな青色が綺麗! | | | |
| | 1-120 | 120P (20分) | | 2011/11/29 20:29:20 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆☆ | 地球の神秘的な光景に目を奪われた。<br>ただ美しいだけでなく自然の壮大さというのも感じられる。<br>一方、人々の生活する都市の夜景は少し違った趣向が感じられてなかなか面白い。（個人的には大阪・京都・神戸の夜景が好きです。） | | | |
| | 1-119 | 119P (30分) | 7 12-13 78-79 | 2011/11/29 00:04:18 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おわこん<br>☆☆☆ | 普通の航空写真(やGoogle Earth)よりも、縮尺や角度などが違うのでそこそこ楽しめた。 | | | |
| | 1-120 | 120P (40分) | 全部 | 2011/11/28 00:09:19 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 嫌好法師<br>☆☆☆☆ | どこかで見たことあるなぁ、と思わされる写真がずらり。<br>「フラクタル」という言葉が頭をよぎりました。<br><br>岩石でできた大地が木の幹に見えたり、川が葉脈に見えたり…<br><br>写真集と聞いてあらぬ想像をしてしまう全ての人へ。<br>素敵な素敵な地球の素顔を写した「赤裸裸」写真集です。 | | | |
| | 1-120 | 120P (45分) | 78 | 2011/11/26 22:54:00 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 坂本さん<br>☆☆☆☆ | くもの巣の写真かと思ったら世界中の都市の夜景だった。全体的に航空写真を見ているような印象だったが、宇宙にいないと見ることができない風景も載っていて面白かった。<br>地球って外から見るとこんな風に見えるのか、と思ったと同時に、今時分がこの景色を見ている（宇宙にいる）と想像したら一抹の寂しさと不安がよぎった。自分には宇宙旅行とか惑星移住は向いていないようだ。 | | | |
| | 1-120 | 120P (60分) | | 2011/11/22 16:19:24 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 柊<br>☆☆☆ | 感動の一冊でした。<br>宇宙ってホントにすごい！！<br>ただただそう思いました。<br><br>特に日本の夜景や島や山がとても素晴らしかったです。 | | | |
| | 1-111ページ | 111P (30分) | 1-30ページ | 2011/11/11 00:47:26 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| nodo<br>☆☆☆☆ | 写真好きのおっちゃんが撮った観光旅行の写真みたいな。<br>でも京都観光じゃないよ。宇宙観光(地球観光？)だよ。というところが面白いところでしょうか。 | | | |
| | 1-117 | 117P (50分) | | 2011/11/10 11:34:57 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 専務<br>☆☆☆☆ | 宇宙に行ってみたい！<br><br>そう思わせる写真がたくさんありました。 | | | |
| | all | 119P (5分) | 69 70 71 78 | 2011/10/31 21:42:49 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆ | 言われてみなければ宇宙から見た地上の景色だとは思えない写真がいくつもある。<br>何枚か、大きな写真で自分の部屋に飾りたい。<br>野口聡一さんのユーモアにも和まされた。 | | | |
| | 1-120ページ | 120P (20分) | 31-50ページ | 2011/10/28 21:03:48 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アカシア<br>☆☆☆☆ | 宇宙飛行士野口さんと共に眺める上空からの地球。<br>それは見たことのない日本の素顔であったり、世界で起きている災害の現状を如実に写し出しています。<br>それは興味深い一面、「見えているものを同じようにカメラで撮ることはできない」という言葉からも分かるように、実物を実際に見てみたいとも思わせます。<br>宇宙に行くしかない!!という野口さんのメッセージが伝わってきます!! | | | |
| | 1-120ページ | 120P (30分) | 9ページ、36ページ、112-117ページ | 2011/10/25 23:26:09 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| タワー<br>☆☆☆☆☆ | 圧巻の風景！<br>普段生活していては絶対に見ること感じることのできない、遥か上空から撮影された日本、世界。<br>どんなに自分がちっぽけか、どんなに地球が偉大か気付かされます。 | | | |
| | 1-110 | 110P (30分) | 41-51 | 2011/10/24 23:24:44 |

ＴＯＰへ

# 地球のハローワーク

| 著者名 | ナショナル・ジオグラフィック | 発行年 | 2009年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 日経BP社 | ページ数 | 333ページ |
| 値段 | 1,900円 | ISBN | 978-4863130722 |
| コメント | 表紙の写真に一目惚れ。<br>人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| 柊<br>☆☆☆☆ | 興味深い写真ばかりだった。<br>全部を読むことができなかったのが残念; | | | |
| | 1-100ページ | 100P (30分) | | 2012/02/15 01:38:34 |
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆☆ | 表紙から面白すぎ！<br>これ仕事になるの？儲かるの？って何度もなった | | | |
| | 1-333 | 333P (15分) | | 2012/02/15 01:30:21 |
| ただ<br>☆☆☆☆ | 274ページの写真がクソ好き | | | |
| | １－333 | 333P (10分) | 274 | 2012/02/04 02:33:38 |
| あおい<br>☆☆☆ | 絵を見ただけでは理解しがたい仕事、日本では考えられない仕事<br>そう、ぼくらは、この人たちのように一生懸命に生きているのだろうか | | | |
| | 1-333 | 333P (40分) | | 2012/01/20 00:10:46 |
| てぃ | 僕らの知らない世界っていっぱいあるんですね<br><br>特に子供の扱いに衝撃を受けました<br>p92のように地雷の処理をさせられるのも衝撃ですが<br>p104やp114のように物乞いに使われるなんて・・・ | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ☆☆☆ | 見るのもつらいですお<br><br>なので、立ち読みポイントには、そのような心が痛くなるようなところではなく<br>違法伐採者なのにこのうえないドヤ顔で写ってる人の写真を紹介しておきます← | | | |
| | 1-333 | 333P (30分) | 158 | 2011/12/06 11:44:19 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 著者は対象を外側から観察し西洋芸術的な美の枠組みに収めることのプロだ。しかし地の文での彼の異文化圏に対する認識は遅れている。<br>それをさしひいても、人間社会の根幹たる「仕事」の偉大さを再認識させてくれた。 | | | |
| | 1-333ページ | 333P (60分) | 120,121ページ | 2011/11/18 20:19:31 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| タワー<br>☆☆☆☆ | ほとんどの写真が見るだけでは何をしているのか分からず、解説の文章を見てやっと意味が分かる。<br>今の日本じゃ考えられないような仕事の数々で驚嘆した。<br>特に立ち読みポイントの２ページは衝撃をうけます。 | | | |
| | 1-333 | 333P (30分) | 114-115 | 2011/11/01 12:45:26 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おわこん<br>☆☆☆☆ | 世界の様々な地域・国・民族などの人たちの労働中の写真がのっていて、純粋に面白かった。<br>発展途上国での子供が働いている写真がチラホラ見られので、児童労働の問題も思い出させてくれるだろう。<br>日本のサラーリーマンの写真に時代を感じた。 | | | |
| | 1-333 | 333P (50分) | 115 | 2011/11/01 00:30:04 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| じん<br>☆☆☆☆ | 日本が改めて豊かな国であると感じました。自分たちよりも小さい子供たちが、貧困に苦しんで学校にも行けず、働かざるを得ない状況にとても悲しくなりました。恵まれている環境にいる自分の行動を見つめなおそうと感じました。 | | | |
| | 1-333 | 333P (30分) | p105, p114-115 | 2011/10/24 17:07:46 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アカシア<br>☆☆☆☆☆ | 世界中の様々な景色や労働者の様子を写し取った数々の写真。それは私たちがまだ知らない世界での暮らしぶり、文化、更には貧困なども如実に物語っている。特に幼い子供が働いている写真には言葉を失ってしまう。まだ知らない世界への扉を開くことによって、私たちの世界観も少し変わるのではないだろうか。 | | | |
| | 1-333 | 333P (30分) | 104-105、114、154-155 | 2011/10/11 08:52:01 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 片道1.5時間<br>☆☆☆ | アフリカや中東など、普段ほとんど情報が入ってこない地域の写真が面白かった。ヨーロッパの写真にも「まだこんな職業が残っているのか」というものもある。<br><br>ただ、日本の写真が「自動車電話をかける舞妓」「墨を作るために煤を集める職人」「リラックスする証券トレーダー」の3枚だったのには少し面食らった。他の国の写真も、その国の人が見れば同じように感じるのだろうか。 | | | |
| | 全部 | 333P (30分) | 302-305 | 2011/10/08 14:50:22 |

TOPへ

# アフリカ・レポート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 著者名 | 松本仁一 | 発行年 | 2008年 |
| 出版社名 | 岩波新書 | ページ数 | 199ページ |
| 値段 | 700円 | ISBN | 978-4004311461 |
| コメント | 『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。<br>失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の２点をぜひ考えてほしい。<br>ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。<br>疑問１ 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？<br>疑問２ 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？ | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| ｐｉｇ(・∞・)<br>☆☆☆☆ | 世界にはこんな生活をしている国もあるのかと思った。<br>アフリカは貧しいっていうけれど、その実態をを初めて知った。 | | | |
| | 1-199 | 199P (300分) | | 2012/02/09 15:20:25 |
| アップルジョン<br>☆☆☆☆ | 今まで読んだ貧困をレポートした話の中でこの本が一番生々しく感じた。<br>本当に”やばいんだ”って感じた<br>それだけでとどまってしまってはどこかいけない気はするのだけれど | | | |
| | 1-205 | 205P (100分) | 4章 | 2012/01/09 16:23:47 |
| あおい<br>☆☆☆☆ | この本に出てくる独裁者はほんとにひどい<br>こんなことがあったなんて初耳だった。今北朝鮮のことがニュースで持ちきりだが、この本の事実はそれ以上の大問題だと思う。なのに、世間でこの事実を知る人はいくばくだろうか？もっとアフリカの国々に目を向け、助けることがほんとに必要なんじゃないかと思った。 | | | |
| | 1-205 | 205P (200分) | | 2011/12/20 23:33:31 |
| Albert<br>☆☆ | ジンバブエにも豊かな時代があったとは。<br>解放のために、独立をしたのに逆に混乱になってしまっているのは皮肉ですね。 | | | |
| | 1-205 | 205P (30分) | | 2011/12/12 21:59:06 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Elmo<br>☆☆☆☆ | 知らなかった・・・<br>アフリカの実態を知るべきです。 | | | |
| | 1-205 | 205P (90分) | 1-205 | 2011/11/29 23:24:55 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| サーフ<br>☆☆ | まだこんな国あるんだ…<br>日本みたいにトップがトップになっていないような国も困るがトップが独裁者じゃあ、元も子もないよなあ…ズーン | | | |
| | 1-205 | 205P (60分) | | 2011/11/21 20:36:46 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| じん<br>☆☆☆☆ | 独裁者の勝手な政策のために、物価が異常に高騰し貨幣の価値がほとんどなくなって、財政が崩壊し国民が苦しむことなんて日本では考えられないので驚いたと同時に、世界で実際に起こっている国があることを知って悲しくなった。 | | | |
| | 1-205 | 205P (180分) | p16-p20 | 2011/11/16 16:34:28 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 片道1.5時間<br>☆☆☆☆ | ふつう、日本人はアフリカのことなど知らないし興味もない。「思いつく外国を挙げてみて」と言われて、いきなり「ジンバブエ」とか「ウガンダ」とか答える日本人はいない。大陸ひとつ、脳内の地図から抜け落ちているわけだ。<br><br>これは、人道的にもちょっとアレな気がするし、それを別にしてもアフリカには「資源の山」みたいな国がたくさんある。経済の観点からも、無視すれば損するに決まっている。<br><br>この本はあまり小難しいことには触れていないので、読みやすい。ザ・独裁者みたいな人物が出てきて、その腐敗政治があまりにひどすぎてかえって笑える。薄くて文字もなんかデカいし、とりあえずアフリカについてちょっとだけ知ろう、というためには気軽に読めてぴったりだと思う。 | | | |
| | 全部 | 199P (120分) | | 2011/10/31 14:03:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 坂本さん<br>☆☆☆☆ | アフリカの悲惨な状況を垣間見る事が出来た。出版されたのが２００８年だから、最新の情報を知りたくなった。<br>状況を改善させる策もいくつかあるが、根本的な解決になるとは思えない。一度壊してしまったものを元に戻すのは、本当に難しいと実感した。 | | | |
| | 1-123 | 123P (60分) | | 2011/10/28 13:04:27 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| こるく<br>☆☆☆☆ | アフリカの国々が独立しても、政治家の腐敗などにより国家としての機能を果たせていない実態が生々しく映し出されており、かなり衝撃を受けた。<br>アフリカにとって今本当に必要なのは何なのか、考えさせられる。 | | | |
| | 1-205ページ | 205P (130分) | 16-52,174-200ページ | 2011/10/24 17:42:48 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ぶち<br>☆☆☆☆ | アフリカの内情を、経済や生活など様々な視点から説明する本です。大雑把に「貧しい国が多い」とか「治安が悪い」といった知識はありましたが、その背景にある知られざる実態には驚かされました。<br>読んだ後には誰しも「政府の役人さん、もっとちゃんと仕事なさい」と思うのではないでしょうか。 | | | |
| | 53-173 | 120P (90分) | 69-71 | 2011/10/18 14:09:40 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆☆ | ジンバブエの深刻なインフレ、南アフリカ共和国の治安悪化といったアフリカの国々が抱える問題が多くの体験談を通じてわかりやすく書かれている。とくにジンバブエに住む人々の生活は衝撃だった。そんな中で地元のNGOの活動が人々に希望をもたらしている。彼らの活動と通じて「本当にすべき援助とは何なのか？」と考えずにはいられない。 | | | |
| | 1-205 | 205P (150分) | 16-22 55-64 152-170 | 2011/10/11 09:13:55 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| てでぃ<br>☆☆☆☆ | インフレ率１６万%という言葉を聞いて驚きすぎて引き込まれてしまった。<br>日々、金銭価値が変化し続けるというのは経験がないぶん驚きの連続だった。<br>現実を知るのは嬉しいことでもあり悲しいことでもあると思った。 | | | |
| | 1-199 | 199P (60分) | | 2011/10/10 22:56:40 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆ | 政治の腐敗の中で、政府に頼らずに生きようとする人たちの姿が希望を与えてくれる。<br>また、歌舞伎町にいるアフリカ系の人に対する見方も変わるかもしれない。 | | | |
| | 1-79,126-205 | 159P (80分) | | 2011/10/10 21:01:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | アフリカのことなんて眼中になかった、というのが今までの自分の態度の正直な反省。経済学をまだ学んでいないので、アフリカ諸国の腐敗政治家たちの財政がどのように非常識なのか、理論立てて正しく理解できないのが少し悔しいです。<br>「日本政府が正式に拠出するODAがアフリカ政治指導者に着服されて、債務のつけが国民を苦しめることになるかもしれない」という記述がショッキングでした。 | | | |
| | 1-199ページ | 199P (130分) | | 2011/10/07 00:29:14 |

ＴＯＰへ

# 絶対貧困

| 著者名 | 石井光太 | 発行年 | 2009年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 光文社 | ページ数 | 272ページ |
| 値段 | 1,500円 | ISBN | 978-4334975623 |
| コメント | 石井光太さん。私たちがおそらく一生関わらずに「済む」（←この２文字をゴチックとして読んでください）であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。<br>山室的立ち読みポイントは<br>・45-46ページ メイちゃんのお母さん<br>・145ページ 花売りビジネスモデル<br>・259-260ページ 売春宿の子供は高学歴 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| 片道1.5時間<br>☆☆☆☆☆ | 「貧困大国アメリカ」とか「子どもの最貧国・日本」とかを読んで、どうせこの本も暗〜くて読み通すのが大変なんだろうな…と思って身構えていたら、全然そんなことはなかった。<br>内容が軽いと言っているわけではない。この本で、統計ではなく著者の実体験によるエピソードとして生々しく語られる途上国の貧困の実態は、先に挙げた2冊の内容よりずっと酷い。しかし、著者の語り口があっけらかんとしているので、悲惨な状況の説明をされているのだと理性ではしっかり理解しながらも、暗澹とした気分にならずにスラスラ読めてしまうのである。<br>貧困問題はまずその存在を知ることが大事だと言うが、知れば暗い気分になるとわかっているのでそのハードルが高い（と思う）。その点、途上国の貧困の実態を「まず知る」ためにこれほどぴったりな本もそうはないだろう。<br>しかし、日本人が途上国のスラムを参与観察して書かれた本なんてものが存在するとは思いもしなかった。世の中には信じられない行動力を持った人がいるものだと感心してしまう。 | | | |
| | 全部 | 323P (120分) | どこからでも読める | 2012/02/14 22:44:56 |
| わぐなりあ<br>☆☆☆☆☆ | 文章にリアルな体験であるからこそ生まれる説得力があり、とても面白く読めた。ユニセフ募金などで語られる話はあくまで「美化された貧困」でしかないことが分かった。<br>かなりおススメの本だが、電車の中で読んでいると「セックス」とかのワードに反応して隣に座ってたおじさんが食い入るように見てくることもあり、恐怖を感じたのでそこだけ注意。 | | | |
| | 1-323 | 323P (100分) | | 2012/02/02 00:53:05 |
| ぶち<br>☆☆☆☆ | 著者自身が途上国の路上生活者やスラムの住人たちと一緒に生活をすることで、同じ目線から貧困について論じています。今まで読んだ本よりもとても貧困生活のイメージが伝わりやすかったです。<br>一言に貧困といっても、その事情には地域差も含めたとても複雑なものがあるようです。貧困について、改めて考えさせられる本でした。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 37-214 | 177P (90分) | 148-151 | 2012/01/03 16:28:01 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| bakeneko<br>☆☆☆☆ | もっと統計じみた本なのかと思って読んでみれば実に生々しい実情が語られていて、非常に驚きました。スラム街の具体的な事情を知る機会はふつうないわけで、あえて経験談主体の構成はとてもうまく機能していたように思います。いろいろ考えさせられてしまいました。 | | | |
| | 1-323 | 323P (90分) | 214-217 | 2011/12/15 04:04:27 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆☆ | かなり面白いです。<br>知的好奇心を満たしてくれます。<br>しかし何か行動せよと言われても正直私は何もしたくないように思った。貧困が悲惨過ぎて。<br>138ページの人口ピラミッドだけでも見てみてください。<br>笑えます。 | | | |
| | 1-323 | 323P (300分) | p138 | 2011/12/13 17:41:54 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 本書を通じて、貧困社会内でのヒエラルキーや売買構造がいくら非人道的な側面を持とうとも、それこそ貧困の中にいる人たちが自らの生活を守るために必要とする要素である（ことがある）と知った。貧困とは、普段の常識では語ることのできないものだと感じた。本書のアプローチのように、ありのままの姿を知ることこそが貧困を語る前提となるだろう。<br><br>相対的な貧しさで言えば日本は「比較的貧しい人の多い国」と言う指標になるが、本書内で活写されている貧困者たちの生活は、住環境の絶対的な違いに示されるように明らかに劣悪だ。日本に長く住みなれている自分にとっては、生老病死がこれほど身近に感じられる環境が、目を覆いたくなるような場所として映ってしまう。 | | | |
| | 1-323ページ | 323P (130分) | 231-243ページ（文庫版） | 2011/12/07 15:27:01 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Albert<br>☆☆☆☆ | テレビでも知ることができない貧困の現実、とでも言うのだろうか。<br>貧困層の住宅の裏事情であったり、栄養剤を食べている食事事情であったりと衝撃的でした。<br>印象に残っているのが、物乞いの講で、いかに物乞いをしてもらうかという駆け引きが繰り広げられていたことです。プロの物乞いは普通に働いている人と同じ額を稼ぐらしい。なんだかな。<br>大学生向けの講義といった形で書かれているので読みやすかったです。 | | | |
| | 1-323 | 323P (90分) | 第9講 | 2011/11/30 23:31:20 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆ | タブーなしでざっくばらんに貧困問題を扱っていて読みやすい。<br>しかし、たまにわざとらしく感じるほど明け透けな言い方が残念。 | | | |
| | 1-243 | 243P (100分) | | 2011/10/10 20:27:03 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おわこん<br>☆☆☆☆ | スラム街に対する固定観念を、変えてくる一冊<br>とても読みやすいのでオススメ<br><br>265-267 売春婦メリーの話とその前後が印象に残った。 | | | |
| | 16-73,97-129,245-316 | 163P (80分) | 265-267 | 2011/10/08 13:22:59 |

TOPへ

# ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩

| 著者名 | 伊藤洋一 | 発行年 | 2007年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 日本経済新聞出版社 | ページ数 | 228ページ |
| 値段 | 1,700円 | ISBN | 978-4532352417 |
| コメント | 世界のITを支えつつ、頑としてカースト制度も健在。新旧混交の不思議の国に日本人視点の率直さで迫ります。<br>ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない（むしろ、取らない）んでしょうね。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| わぐなりあ<br>☆ | カースト制度が存在するが故に実力で成功を収めることのできるIT産業が下層の人々を中心に栄えた、ということは理解できたが、インドの国内事情について書かれているだけで、特にこの本を読む必要性は感じられなかった。 | | | |
| | 47-83、157-240 | 121P (40分) | | 2012/02/14 00:32:18 |
| いち<br>☆☆ | インドに行ってきた友達から話を聞く感じです。なんというか。。。レポート？ | | | |
| | ぜんぶ | 244P (120分) | | 2012/02/12 23:25:37 |
| R2D2<br>☆☆☆ | 読み始めてしばらくは、同じ話題に何度か言及したり、インタビューや現地紙から得た情報そのものの報道としての書き方が多かったり、他書に比べればルポルタージュとしてのシリアスさに欠ける気がしていました。<br>しかし、インド国内の目に余る格差や、カーストが生み出す社会の亀裂に困惑し「ニューデリーの街角にじっと佇みながら考え」（116ページ）たという記事などに見えるように、日本人が英語で容易に交流できるインド上流階層だけがインドの国運を担っているわけではないことを明らかにしてゆく筆者の態度は、取材者としてとても真摯だな、と感じました。二回目以降の取材を通して筆者のインドに対する既存の意識が改まってきたことを、読み取ることができました。 | | | |
| | 1-228ページ | 228P (230分) | 85-121ページ | 2011/11/10 21:22:51 |
| しゅまり<br>☆☆☆ | 元々インドという国に興味があったので、筆者が実際に観たインドの様子が描かれていてなかなか面白かった。<br>筆者が新聞記者ということもあり、特に主義主張のある本ではない。単にインドという国の実情を知りたいのであれば読んでみてもいいと思う。 | | | |
| | all | 244P (70分) | | 2011/10/26 01:17:51 |

片道1.5時間
☆

調査も考察も浅い。

ろくに調べもせずに「私のインドの感想」を書いてみました、という感じ。Wikipediaからの引用までいくつかある（なぜわかったかというと、著者自身が恥ずかしげもなくそう書いているからだ）。他の部分もいい加減なソースなのではないかと疑いたくなる。
だいたい、まえがきで自慢気に「私は三回インドに行っている」とか言っているが、その滞在期間というのが合計して数週間程度というのだから笑える。その程度でよく本を一冊書こうという気になったものだ。
エッセイならそれでもいいかもしれないが『インド・成長の秘密と苦悩』とか偉そうな副題をつけておいてこの程度の内容というのはひどい。

肝心の『ITとカースト』についての考察も説得力ゼロ。著者によると「IT産業が求めるのは身分ではなく、効率と結果だから」IT産業がインドのカースト社会を変えようとしているらしい。しかし、効率と結果を求めているのはなにもIT産業だけではない。現代の産業ならばすべてそうだ。効率と結果の追求という性質があるのは当然の前提として、ではそれ以外にIT産業には他の産業にはないどのような特殊性があるのか？というふうに考察を進めるべきだろう。
他の部分の考察のレベルも似たようなものだ。というか、はっきり言って著者のやっていることは考察ではない。ただの感想だ。

不十分な調査と、フィーリングだけで書かれた説得力のない浅い分析。死ぬほどヒマな人以外には全くお勧めできない本である（ちなみに私は死ぬほどヒマな授業中に読んだ）。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 全部 | 244P (120分) | なし | 2011/10/07 14:30:35 |

TOPへ

# ネット大国中国――言論をめぐる攻防

| 著者名 | 遠藤 誉 | 発行年 | 2011年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 岩波新書 | ページ数 | 219ページ |
| 値段 | 798円 | ISBN | 978-4004313076 |
| コメント | お隣中国のネット事情について。ネットに政治的に介入する中国側の施策の裏側と、ネットユーザーの感情とがやけに生々しくて面白い。<br>中国版2009年の漢字は『被』だそうだ。「被自殺」「被代表」「被増長」、なんだよそれと思ったら、p93へGO。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| タワー<br>☆☆☆ | なんか読んでいて飽きてしまいました。<br>日本て自由でいいなー | | | |
| | 1-40 | 40P (20分) | | 2012/02/02 22:00:05 |
| ながーる<br>☆☆☆ | 開いたはいいがまったく読みすすめられなかった<br>中国という大国を維持するのは島国の民が考える以上の徹底された統制があるのですねぇ<br>日本ってぼーっとしてていいんでしょーか？？ | | | |
| | 1-6 | 5P (10分) | | 2012/01/24 12:48:32 |
| ぶち<br>☆☆☆☆ | 私の読んだ章では、ネット検閲と世論操作について述べられたおり、その成り立ちから仕組みまで、詳細に書かれていました。<br>国主導で、何人もの人間にネットの掲示板で政府を支持するサクラの書き込みをさせていることには驚きました。やはりここまで徹底した情報管理が今の中国を支える一つなのでしょうね。いつまでこれが持つのやら・・・という気もします。 | | | |
| | 57-86 | 30P (30分) | 72-76 | 2011/12/27 12:00:21 |
| サーフ<br>☆☆☆ | ネットってすごい！<br>むづかしいからさらーって読み流しました( T_T) | | | |
| | 1-219 | 219P (120分) | | 2011/12/21 21:41:15 |
| | 若者のネット普及率が高くなった中国では、ネットを介した人々の意見が中国政府の恐怖になっているという。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| こるく<br>☆☆☆☆ | この一連の流れについて細かく述べているのが本書である。<br>中東で民主化が進んだきっかけがネットによるものだったのは衝撃的だったが、中国でもやがて民主的な社会に近づいていくのか、目が離せないと思った。 | | | |
| | 1-219ページ | 219P (180分) | | 2011/12/06 20:36:02 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆ | 中国政府の情報規制に対して、知恵とパロディで対抗する網民たち。中国の民主化の動きは日本にとっても大きな出来事であるので興味深い。しかし、本を通じて中国の内情がわかると民主化がいかに困難であるかを思い知らされる。ではあるが一方で、ネットは着実に政府を動かしている。今後も中国の動きに目が離せない。 | | | |
| | 1-219 | 219P (90分) | 87-114 | 2011/11/29 00:16:31 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 嫌好法師<br>☆☆☆ | ごめんなさい！ページが進みませんでした。<br><br>またの巡り合わせがあればコメント更新します(_ _) | | | |
| | 219中30ページ | 30P (20分) | | 2011/11/26 23:35:29 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆☆ | 中国政府と80后との関係がおもしろい。政府と80后、ともに民主化を求めているわけではないが、かといって一体のものでもない。権利意識の強い80后とその対応に苦心する政府の姿が興味深い。<br><br>天安門事件などはほぼ名前だけしか聞いたことがなく、なんとなくしか知らなかった。なので途中、良くわからない部分もあった。中国の近現代の歴史を知っていると知らないでは、読んだあとの感じ方も違うのではと思ったので、これを機会に中国の近現代史を調べてみたくなりました。 | | | |
| | 1-219 | 219P (120分) | | 2011/11/02 11:01:18 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| bakeneko<br>☆☆☆☆☆ | 中国におけるインターネットがどのように政治と絡んでいるか。世界情勢として非常に重要な情報であるはずなのに、あまりに自分が無知であったことに驚きました。五毛党・GFWという概念も、読みつつ思わず声をあげてしまいそうになるほどでした。80后90后という言葉も知ってはいましたが、これほど現在の中国の情勢に影響を与えているとは思いませんでした。<br>また『インターネットが民主主義を促進する』という題目がどの程度正しいかはともかくとして、インターネットがここまで深く政治に関わっている文化圏があるのだというのが新鮮に感じられました。僕は世代柄インターネットを礼賛する主張を数多く見かけながら育ってきましたが、現状日本の特に政治分野において、インターネットが本当に役に立っているかというとかなり懐疑的です（東北震災でのネット言論の流れにははなはだ失望させられました）。中国インターネットにみられるクリティカルな政治影響力が、日本でも同様に産まれうるとはいまの僕にはとても信じられません。はたしてこの違いはどこから来ているのか、非常に考えさせられました。<br>最後に、中国では既にネットが公共放送のオルタナティブになりはじめているという文面を読み、非常に大きな期待感を覚えました。それはあくまで公共放送の頼りなさに助けられた現象ではあると思いますが、日本では散々叫ばれつつ未だに整備しえていないシステムだと考えます。今後の動きに注目していきたいと思いました。 | | | |
| | 1-219 | 219P (200分) | 165-167 | 2011/10/27 13:47:37 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 筆者の感性・言葉・話題の若さから三十歳前後だろうと考えていたので、最後まで読んでむしろ戦前生まれだったことに驚いた。<br>「人肉捜索」(人力検索という意味)などの一部のキーワード、中国の網民(ウェブユーザー)が自国について自省的な発言をしていたことなどは個人的に日本のウェブメディアを通して知っていた。しかし本書を読み通して、中国政府がネット上の言論統制にどう線引きを引くか、その戦略を知る事ができた。 | | | |
| | 1-219ページ | 219P (200分) | | 2011/10/20 16:51:19 |

TOPへ

# ルポ 貧困大国アメリカ　・

| 著者名 | 堤 未果 | 発行年 | 2008年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 岩波新書 | ページ数 | 409ページ |
| 値段 | 700円 | ISBN | 978-400431126 |
| コメント | サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。<br>ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。<br>そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。<br>などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| カンコーヒ<br>☆☆☆☆☆ | 少ししか読めてないけど、アメリカにすごく憧れを抱いてた私には衝撃が大きい。競争原理じゃうまくいかないのかな？ | | | |
| | 1-50 | 50P (45分) | | 2012/02/15 01:08:58 |
| 片道1.5時間<br>☆☆☆☆ | 暗〜い気分になりたいときにおすすめの本。ひどい。アメリカは格差社会だというのは聞いていたが、ここまでとは思わなかった。いくつか例を挙げると<br>・およそ6000万人のアメリカ国民が1日7ドル以下の収入で暮らしている<br>・公立高校の民営化のせいで、貧乏な地域では2ヶ月ごとに授業と休暇の繰り返し（授業が半分しかない！）<br>・医療保険民営化のせいで医療費が高すぎて日帰り出産する妊婦が増加<br>・軍に生徒の個人情報を提供しなければ助成金打ち切りなので貧乏高校に通う生徒は軍のリクルーターのターゲットに<br>といったところ。<br>著者は貧者の側に立って書いているので多少の「盛り」はあるかもしれない。だが、もしこの本に書いてあることの半分が「盛り」であったとしても、それでも悲惨すぎる。アメリカがあれほど偉そうに標榜する「自由」というのが、貧困に絶望しながら死ぬ自由、そしてそれを助けない自由だということがよくわかる。<br>もっとも、日本も実はよそを非難できるほど立派な状態ではないというのは「子供の最貧国 日本」などを読めばわかるのだが…<br>この本と「子供の最貧国」を読んでなおリバタリアンの姿勢を貫ける人がいたとしたら人間やめたほうがいい。 | | | |
| | すべて | 207P (120分) | 4章 出口をふさがれる若者たち | 2012/02/14 14:06:50 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Elmo<br>☆☆☆☆ | こんなにアメリカが深刻だとは思わなかった。<br>アメリカンドリームは何処へ？ | | | |
| | 1 - 409 | 409P (80分) | all | 2012/02/14 13:30:49 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あああああ<br>☆☆☆☆ | さまざまな問題を深く掘り下げている<br>のがよかった。<br><br>アメリカにはもっと夢があると思ってた・・・ | | | |
| | 1-207 | 207P (180分) | | 2012/02/03 04:17:39 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Nob<br>☆☆☆☆ | アメリカは自由で豊かな国だと思っていました。<br><br>しかし、現実は違うみたいで、、、<br><br>確かに、富裕層は豊かな暮らしをしているんだろうけど、中流階層以下の階層の現実は酷いものの様です。<br>アメリカは皆保険ではないから医療費が高いと言うのは聞いてましたが、今現在のここまで酷い状況には驚きを隠せませんでした。<br>その他、学資ローンや年金などが、商業主義と結びついて、本来経済的弱者を助けるために有るためのものが、逆に彼らを苦しめてしまうと言うのは、何とも納得いかない感じがします。<br><br>先進国であるアメリカを支える市民の現状がわかります。<br>是非読んでみてください。 | | | |
| | 場K巻 | 216P (180分) | | 2012/01/08 15:09:34 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ｐｉｇ(・∞・)<br>☆☆☆ | 自由を謳っているアメリカだけど、<br>なんでも競争市場にしちゃうから下はすごく苦しい。。<br>真実かなぁと思うほど非人道的なことばかり書いてありました。<br>なんかアメリカに行きたくなくなった。 | | | |
| | 1-207 | 207P (200分) | | 2011/12/18 17:27:01 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| じん<br>☆☆☆ | 自由主義を目指すはずが結果的に格差の拡大を招いてしまい、安くて健康に悪い食事のせいで肥満児が増えてしまう。その結果医療費が莫大にかかり、それがまた貧困層を苦しめる。本末転倒な気がする。 | | | |
| | 12-31 | 20P (20分) | 12-31 | 2011/12/06 00:48:20 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| わぐなりあ<br>☆☆☆☆ | 農業・畜産分野に加えて、医療分野では「混合診療」を懸念しTPP参加に反対する意見が根強い。<br>政府は混合診療化について否定しているが、仮にTPPによって公的医療制度が廃止されることになるのだとしたら、この本で紹介されているような「医療費が払えずに貧困に陥る」という悲惨な状況が待っていることが予想される。そう考えると背筋が凍るような思いがした。<br>医療関係以外でもこれからどのように関係するにせよ、アメリカという国のの社会状況を知る上で読むべき本だと思う。 | | | |
| | 1-207 | 207P (90分) | | 2011/12/05 14:09:58 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ただ<br>☆☆☆ | 分かりやすく色んな事例を書いてるけど、一方通行の主張しかなかなくて、洗脳されそうになったから読むのやめた。<br>裕福大国アメリカって本があったら、一緒に読んだら絶対面白い！ | | | |
| | 1-100 | 100P (120分) | | 2011/11/22 18:50:22 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Albert<br>☆☆☆☆ | 読了。<br>自由の国と呼ばれるアメリカ。僕は少しあこがれていました。しかし、自由には責任がついてきます。印象的だったのが、医療費が払えないがために病院から追い出されてしまう人々。人の命は何者よりも大事だと考えていた僕にとって衝撃でした。 | | | |
| | 1-409 | 409P (60分) | | 2011/11/21 15:09:02 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆☆ | 貧困層をターゲットにして、戦争を金儲けに利用する様子に唖然。奴隷貿易を思い出した。だが、「志願して軍人になったのだから、自己責任」としてかたずけられかねない現状は、強制的にアフリカ人を連れてきた奴隷貿易よりも残酷かもしれない。 | | | |
| | 36-62,99-190 | 119P (80分) | 152-158 | 2011/11/09 20:35:25 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ぶち<br>☆☆☆☆ | 市場原理主義を持ち込み過ぎたアメリカの実情を医療、軍事などの面から述べています。特に、新自由主義を医療に持ち込んだ結果についての話は、国民皆保険が当たり前となっている日本からすれば信じられないほどお粗末なものに感じられるのではないでしょうか。「医療は人の命を救うのが最優先」という考えが通用しないのは衝撃でした。 | | | |
| | 1-207 | 207P (150分) | 77-83 | 2011/11/05 10:20:02 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| こるく<br>☆☆☆☆ | 自由市場化の対象を広げすぎたことによる、深刻な現状がよくわかる本である。<br>医療や教育現場まで「ビジネス」となっており、一度重い病気にかかっただけで家計が苦しくなったり、大学の学費が膨れ上がって通えなくなったりした人々の実例が重い。さらに、経済的に苦しい立場に置かれた人はだまされ、戦地イラクへと送られる・・。<br>「自由」が独り歩きし、その結果激しい格差社会を生んだこの国の在り方は何か間違っていると感じた。 | | | |
| | 1-207ページ | 207P (160分) | 64-95ページ,100-141ページ | 2011/10/26 20:42:30 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| しろ<br>☆☆☆ | 次々と民営化を推し進めてきたアメリカ。そして、その結果が格差の拡大だ。とくに教育を民営化したことで、学生は学費を支払うためには軍に入隊して学費を免除してもらう。そして、彼らはイラクへと派遣される。しかし、彼らの多くは結局は学費を払いきれない。これは詐欺としか言いようがない。「テロより怖い民営化」この言葉を本を通じて痛感した。 | | | |
| | 1-207 | 207P (150分) | 32-33 64-74 100-107 | 2011/10/11 09:41:28 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆ | 「刑務所の労働力は第三世界のそれよりも安価なのです！」（　巻第五章より）ここまで言われると自由至上主義が嫌いになってくる。NPO団体の活躍や、メディアに踊らされずに力強く生きている人などが紹介されれば、言葉の鋭さは幾分かは和らぐかもしれない。<br>「州兵としてイラク戦争を支えた日本人」（　巻p.178）は日本人は関係ないということにしておくことができなくなるような、ぞっとするインタビューだ。 | | | |
| | 1-409ページ | 409P (210分) | 巻p.178、　巻第五章 | 2011/10/11 00:33:39 |

TOPへ

# 子どもの最貧国・日本

| 著者名 | 山野 良一 | 発行年 | 2008年 |
|---|---|---|---|
| 出版社名 | 光文社新書 | ページ数 | 273ページ |
| 値段 | 861円 | ISBN | 978-4334034702 |
| コメント | 「貧困」から連想する国と言えば？ 所得格差の大きなアメリカ？ 飢餓で苦しむアフリカの国々？ 東南アジア？ 東欧諸国？ そう考えたあなたは、きっと日本には貧困で苦しんでいる人なんて一握りだと思っている人。<br>そんな人には、一度でいいから自分の今いる日本について知って、考えてみて欲しい。<br>データの見せ方・数字の使い方がとても上手。客観的にわかりやすく、見えにくいものを可視化するグラフはとても丁寧。社会問題に意識を向けるもよし、論文の書き方の参考にするもよし、一読で二度おいしい本でございます。 | | |

## 読者投稿欄

コメント登録

| ペンネーム<br>お勧め度 | コメント | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 読んだ場所 | 読んだページ数（時間） | 立ち読みポイント | 投稿時間 |
| なっちゃん<br>☆☆☆☆ | 正直日本は世界的に見て貧困という言葉からは最も遠いといっても過言ではないかと思っていた。マリー・アントワネットの「パンがなければ、ケーキを食べればいい」という発言のように貧困でない人が貧困の現状を知るのは難しいのかもしれない。<br><br>とにかく日本でこの問題を解決するには国民一人一人に自覚させることが1番の課題だと感じた | | | |
| | 1－273 | 273P (150分) | | 2012/02/15 01:23:51 |
| 片道1.5時間<br>☆☆☆☆ | この本によれば、日本の子どもの14.3%（7人に1人！）が貧困ライン以下の生活を送っており、これはOECD26カ国中16位である。おかしなことに日本では政府の介入後の方がひとり親家庭の貧困率が上昇している。政府は改善策をとるどころか、現状よりさらに悪化させるような政策（生活保護の母子加算廃止など）をとっている…<br><br>7人に1人もの子どもが貧困のなか生活しているというのも、自分がそのことを全く知らなかったというのもショックだし、政府がそれを是正する政策をとっていないということにも衝撃を受けた。そしてそんな政府を承認しているのが誰かといえば、有権者たる大人たちであり、その中には自分も含まれている。<br>知ってしまった以上は知らんぷりはできないが、自分に何ができるかというと難しい。とりあえず、次の選挙のときには候補者選びの基準として子どもの貧困への姿勢というのを追加しようと思う。<br>また、自分が知らなかったということは自分と同じような生活を送っている知り合いたちも知らない可能性が高い。著者も言うように、貧困問題は貧乏ではない人にはまず気づくのが難しいのだろう。この本で知った日本の子どもを取り巻く現状を、友人たちにもさりげなく教えたいと思う。<br><br>大部分が貧困の理論と各論にさかれていて興味のない人には読みにくいと思うが、日本における子どもの貧困の実態を概観している1章だけでも広く読まれてほしいところ。 | | | |
| | 全部 | 273P (150分) | 1章 | 2012/02/14 22:03:33 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| タワー<br>☆☆☆ | 他の国で起こっていることだと思っていたのに自分の国の日本での深刻化しているとは……<br>特に日本は政府の介入をしているのにむしろ貧困率が上がっているというゆゆしき事態。<br>僕らの世代で変えていかなければ。 | | | |
| | 1-50 | 50P (20分) | 45 | 2012/02/14 12:45:41 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アニマル<br>☆☆☆ | 日本も大変なんですね。知らなかったです。所得格差、教育、家庭などこれから先僕たちが考えていかなければならない問題が書かれています。 | | | |
| | all | 273P (180分) | | 2012/02/01 23:15:25 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| じん<br>☆☆☆ | 国によって子供の貧困の格差がありすぎる！特にアメリカ国内は金持ちか貧乏かの二極化になっていると思った。日本国内も子供の貧困率が上昇していて、アメリカのような状態になりつつあることを知らなかった。 | | | |
| | 25-50 | 25P (20分) | | 2012/01/16 23:52:11 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ぶち<br>☆☆☆☆ | 私の読んだ章では貧困と学力低下・児童虐待の関係を、数字などの詳細なデータを用いて述べていました。<br>普段ニュースで虐待の話を聞くと、直感的に児童相談所は何をしている、ちゃんとやれと思ってしまうのですが、この本で書かれていた虐待と貧困の関係や筆者が直接聞いた親たちの思いを見ると、単なる外からの締め付けや監視では何の解決にもならない、対処療法的でしかないと認識させられました。 | | | |
| | 85-120 | 36P (30分) | 111-115 | 2011/12/27 11:50:52 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| サーフ<br>☆☆☆ | 数字を使っているのが分かりやすいような、分からないような、、<br>貧困ってなにを言うんですかね。。 | | | |
| | 1-273 | 273P (60分) | | 2011/12/21 21:35:16 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| あき<br>☆☆☆☆☆ | 貧困者への目や声が日本ではあまり見えないとの意見には納得。問題を解決することももちろん大事であるが、その前に発見する力、継続して見守っていく力というものが、このような長期にわたる社会問題には不可欠である。このような力を持っていない日本に比べ、このような力を持っている欧米で寄付やNPO活動などの社会運動が根付いているというのは当然のことであるかもしれない。<br><br>貧困の文化論というのも興味深かった。貧困層を卑下するわけではないが、そこ独特の習性、ルールというものを知っておかなければ、問題が解決できないどころか、命を落とす危険がある。<br><br>筆者がアメリカで受けたという、自分の社会的な性質をグループに告白してから議論を行う、「多様性」の授業も大変興味深かった。しかし、日本の大学でやってもたいした違いもなく面白くないかもしれない。が、1度はやってみたい。 | | | |
| | 1-273 | 273P (150分) | 37-38,64-66 | 2011/11/30 21:06:31 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おにぎりんぬ<br>☆☆☆☆ | 貧しい子供を助けなければならないのは単に子供たちが可哀想だからというだけではなく、このままだと国にとっても私たちにとってもマイナスになってしまうから。<br>家が貧しいために学びたくても学べず、低賃金の仕事にしか就けない…もっと日本は貧しい子供に投資するべき!!<br><br>５章位まではだいたい同じようなことが書いてあるので、前半はざっと目を通す感じで読めばいいと思います。 | | | |
| | 1-273 | 273P (180分) | 6，7章 | 2011/11/14 17:01:08 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| おわこん<br>☆☆☆☆ | 10/25の講義でリバタリアニズムの人が多かったので、一言。貧困も自己責任？子は親を選べないのに？ | | | |
| | 1-34,51-101,244-260 | 102P (60分) | 51-61 | 2011/11/01 01:12:58 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| わぐなりあ<br>☆☆☆ | 学力、虐待、発育などについて貧困というキーワードのもと論じられており、幸いなことに貧困に直面したことのない自分にとってその現状はショックなものだった。<br>著者の論理は一貫しており内容は理解しやすいが、直感的に想像のつくことが語られているケースが多いのが難点。 | | | |
| | 1-50、87-203、235-260 | 193P (80分) | | 2011/10/24 21:46:10 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| てでぃ<br>☆☆☆ | なかなか読み進まなく大変だった。<br>児童福祉士の立場から現在の日本の状況を分析している本。<br>途中途中にはさまれている現状の事例が生々しく記憶に残っている。<br><br>本文に関しては割と同じようなことの繰り返しであるため多少飽きる。<br>面倒な人は、事例のみをつまんで読むのも良いだろう。 | | | |
| | 1-273 | 273P (150分) | | 2011/10/13 22:45:28 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ちゃむ<br>☆☆☆☆☆ | 貧困とは一言で言えるものではない。この本では著者が経済学部出身ということもあり、数字を使って貧困の様々な側面を写し取っている。<br>私は貧困というものをいかに一面的に捉えているかを思い知らされた。例えば少し前に児童手当が話題になったが、世論の雰囲気はその政策は間違いだとされていた。しかし、ほんとに間違いなのか、他になにかもっといい方法はないのだろかとこの本を読んで考えた。<br>数字が多用されていて難しい印象を受けたが、飛ばしつつでもいいので本全体を読んでほしい。 | | | |
| | 1-273 | 273P (215分) | 91,4章 | 2011/10/11 13:36:51 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| R2D2<br>☆☆☆☆☆ | この本で紹介されているような子どもたちは地元通いの私の身近に数多くいるように感じます。似た数例は直接知っています。でも僕はまだその社会問題としての全体像を知りませんので、ページを繰るのがつらいですが読みきることができました<br><br>教育と生活にかかわる問題は、多様な要素が互いに影響を及ぼしあっておこるものであるようです。このタブー視されている領域について「当たり前のこと」としてそれ以上考えることをやめずに、福祉が目指すべき姿を問うている筆者の明晰さに見習いたいと感じました。 | | | |
| | 1-273ページ | 273P (170分) | 7章 | 2011/10/04 22:43:23 |

TOPへ